

(商品別輸出)

2011年12月2日(金)

品目	2010年度 (実績)		2011年度 (見込み)				2012年度 (見通し)		コメント				
	10億円	伸び率%	上半期 (実績)		下半期 (見込み)		10億円	伸び率%	10億円	伸び率%			
			金額	伸び率%	金額	伸び率%							
総額	67,792	+14.9%	32,806	▲3.8%	33,654	▲0.1%	66,461	▲2.0%	↑	69,173	+4.1%		
EX 01 食料品	407	+5.0%	162	▲14.1%	201	▲7.9%	363	▲10.8%	↑	385	+6.0%	約4割を占める魚介類及び同調製品は、さけ等をはじめとして震災の影響で、輸出量減少。果実も風評被害等を受けて、りんご等が大幅に輸出減。	震災の影響も緩和されること、また海外需要の高まりから増加。
EX 02 原料品	953	+5.5%	483	+4.4%	534	+8.8%	1,017	+6.7%	↑	1,105	+8.7%	金属鉱及びびくずの中で、主要品目の鉄スクラップは、震災後、日本製スクラップに対する忌避や抜港の影響で大きく落ち込んだが、下半期は、国内需給緩和に伴う価格の低下などを背景に増加。中国、韓国等海外の引き合いも堅調。合成ゴムは、上半期には震災の影響で生産量が減少し、輸出数量も減少。下半期は、在庫復元、アジアを中心とした自動車需要の拡大などから増加傾向が続く。単価は原材料価格の上昇で2ケタの高い伸び。織物用繊維及びびくずは、アジアを中心に堅調な需要に支えられ、底堅く推移。	金属鉱及びびくずでは、主要品目の鉄スクラップが、2011年度上半期の反動、海外での引き合い拡大を背景に増加。ただし、国内価格の上昇、円高を背景に、その幅は緩やか。合成ゴムは、アジアを中心とした自動車需要の拡大などから増加傾向が続く。原材料価格の下落から、単価はやや低下。織物用繊維及びびくずは、基調に大きな変化は見られず、アジアを中心に堅調な需要に支えられ増加。
EX 03 鉱物性燃料	1,180	+18.4%	673	+11.2%	360	▲37.4%	1,033	▲12.5%	↑	1,596	+54.5%	原油価格の上昇により輸出価格は上昇。輸出数量は、震災の影響により複数の製油所稼働が停止、上半期は減少。現在も2製油所が停止しており、下半期も減少を見込む。	原油価格の下落により輸出価格が下落。輸出数量は、現在停止している2製油所の生産再開が見込まれ、国内の石油製品の需要が減少傾向にあることから、輸出数量は増加。
EX 04 化学製品	7,025	+10.2%	3,407	▲1.5%	3,373	▲5.4%	6,779	▲3.5%	↑	6,915	+2.0%	上半期は震災の影響、中国の需要が金融引き締めの影響で伸びず、輸出数量は大きく減少。原油高騰を反映して輸出価格は上昇するも、円高、加えてナフサとエチレンの価格差縮小により、相対的に上昇幅は小幅にとどまる。	中国が景気の軟着陸に成功後、徐々に金融引き締めを解除、石油製品に対する需要も経済成長に沿うペースに回復。輸出価格は原油価格低下を反映。
EX 05 原料別製品	8,923	+18.4%	4,471	▲0.8%	4,050	▲8.3%	8,521	▲4.5%	→	8,500	▲0.2%	欧米景気の減速や円高による競争力の低下が下押し要因となる中、タイ洪水が鉄鋼や非鉄金属の外需減少をもたらす。ただし、繊維など一部では国内で代替生産を行い輸出する動きも見られる。原料別製品全体では下半期は上半期比減少。	原料別製品は、アジア等の新興国を中心に需要は底堅く推移するものの、円高水準が続くなどから輸出の回復力は弱く、ほぼ2011年度並みで推移。
鉄鋼	3,793	+25.1%	1,878	▲1.3%	1,548	▲18.1%	3,426	▲9.7%	↑	3,641	+6.3%	世界経済の減速やタイ洪水の影響で外需が伸び悩むことに加え、足元の円高水準が続くことや、中国・韓国材の輸出攻勢等から、下半期の輸出数量は上半期に比して減少。また、足元の市況が軟化傾向にあることや、原料価格が下がるとの見直しから、市況も軟調に推移するため金額でも上半期比で大きく減少。	アジアを中心とする新興国の需要は引き続き拡大することが予想されることや、わが国製造業の海外シフトが進むことに加え、タイ洪水の影響が一巡すること、円高の影響が若干和らぐことなどから、輸出数量は増加。市況も2011年度下半期の水準から上昇するため金額も増加。
非鉄金属	1,325	+12.2%	662	▲2.4%	560	▲13.4%	1,222	▲7.8%	↓	1,202	▲1.7%	アルミニウム及び同製品は、下半期には震災の影響が薄れるが、欧米中の景気減速、タイ洪水の影響などにより、減少が続く。銅及び同製品は、円高に伴う価格競争力の低下により、数量減が予想され、市況も軟調に推移することから、金額でも大幅な減少。結果として、非鉄金属全体でも減少。	アルミニウム及び同製品は、海外景気が現状よりは改善することや、タイ洪水からの復興需要等から、増加。銅及び同製品は、円高の影響が残り、2011年度下半期から数量は横ばい程度にとどまるが、市況が若干回復するため、減少幅は縮小。非鉄金属全体では銅及び同製品の減少が響き減少が続く。
織物用糸・繊維製品	616	+6.8%	321	+3.0%	309	+1.6%	630	+2.3%	→	627	▲0.5%	アジアにおける高機能品需要の拡大や、タイ洪水を受けた国内工場での代替生産の動きが下支え要因となるものの、先進国景気の減速や、円高に伴う輸出採算の悪化により、繊維輸出全体の伸びは鈍化。	アジアで高機能品需要の拡大が続くものの、円相場が高止まる中で、汎用品分野の国内生産撤退、自動車や電機メーカーの現地調達増加による下押し圧力が強まる展開に。さらに、タイ洪水に伴う代替生産の動きも一巡すると見込まれるため、通年の輸出金額は減少に転じる。
非金属鉱物製品	949	+16.4%	486	+0.4%	449	▲3.6%	935	▲1.6%	↑	969	+3.7%	6割弱を占めるガラス及び同製品は、下半期にかけて主要輸出先である台湾、韓国で液晶ディスプレイ向けの引き合いが弱まる。セメントは、海外需要の拡大が続いているものの、復興需要を背景とした国内需要の拡大、国内の生産体制の見直しに伴う輸出余力の低下からやや減少。	ガラス及び同製品は、生産調整が一巡し、下半期から回復基調。ただし、中国などアジアでの生産能力の拡大などから単価の上昇余地は小さい。セメントは、国内需要の拡大が一般し微増。
EX 06 一般機械	13,783	+32.7%	6,961	+3.2%	7,089	+0.7%	14,050	+1.9%	↑	14,700	+4.6%	世界的な景気減速により一般機械輸出の伸びは大幅に鈍化。2010年度の伸びを牽引した建設用・鉱山用機械が中国の金融引き締めの影響などから減速。電算機等は国内生産の縮小や円高などから減少。	新興国のインフラ整備需要、資源開発需要の拡大基調が続くことなどから増加。
電算機類 (含周辺機器)	429	▲3.5%	193	▲16.7%	185	▲6.2%	378	▲11.9%	↓	365	▲3.3%	海外景気の減速や、国内生産の縮小により輸出数量は減少傾向が続く。デジタル関連製品の価格下落、円高により価格ベースも下落。	円高などから海外での現地生産拡大の流れが続き減少。
電算機類の部分品	1,244	▲2.0%	573	▲12.1%	534	▲9.8%	1,107	▲11.0%	↓	1,073	▲3.0%	日系メーカーは海外生産拠点シフトや海外メーカーへの生産委託を拡大させており、日本からの部品輸出が縮小傾向にあることや、下半期はタイ洪水の影響による部品不足により生産の減少が見込まれ、輸出も減少。	円高の影響や、部品の海外現地調達拡大により減少。
EX 07 電気機器	12,544	+7.3%	5,924	▲9.1%	6,074	+0.8%	11,997	▲4.4%	↑	12,300	+2.5%	景気後退への憂いが電気機器市場の需要にインパクトを与えている。その中でも日本は震災の影響と大幅な円高の影響もあり▲4.4%。	世界的には、スマートフォンやメディアタブレットが好調で、半導体市場は伸びる。ただし、欧米経済の減速や円高が向かい風となり、電気機器輸出は伸び悩む。
半導体等電子部品	4,070	+6.5%	1,828	▲15.8%	1,930	+1.6%	3,758	▲7.7%	↑	3,900	+3.8%	震災の影響と大幅な円高の影響もあり、半導体等電子部品の輸出は▲7.7%。	世界的には、スマートフォンやメディアタブレットが好調で、半導体市場は+7%程度伸びる。ただし、長期的な円高の中、日本メーカーの海外生産も加速している状況で、世界の伸び率ほどには成長が期待できない。
EX 08 輸送用機器	15,023	+13.1%	6,594	▲12.9%	7,775	+4.3%	14,369	▲4.3%	↑	15,059	+4.8%	自動車、自動車の部分品は、震災被害による上半期の供給制約の影響が大きく、下半期に輸出増加するも通年では減少。船舶は1年以上先の引き渡し分まで契約が進んでおり、微減。自動車輸出減少の影響が大きく、輸送機器全体でも減少。	震災影響はなくなるものの、景気後退懸念やファイナンス環境の悪化で欧米向け自動車と船舶は弱含み。自動車の部分品は自動車の海外生産増加に伴い増加。
自動車	9,036	+16.7%	3,713	▲18.4%	4,760	+6.2%	8,472	▲6.2%	↑	9,207	+8.7%	北米需要の回復など海外需要が増加するものの、震災による上半期生産減が影響し減少。	日本の供給体制は震災前同様に回復するも、世界的な景気後退懸念や金融不安の長期化、海外生産シフトで輸出は伸び悩み。
自動車の部分品	3,086	+15.8%	1,465	▲5.3%	1,600	+4.0%	3,065	▲0.7%	↑	3,195	+4.2%	上半期は震災影響による供給制約で輸出が減少、下半期は供給制約が解消され輸出回復。	海外生産増加に伴い増加。
船舶	2,147	+2.0%	1,039	▲6.4%	1,031	▲0.5%	2,070	▲3.6%	↓	1,913	▲7.6%	1年以上先の引き渡し分まで契約が進んでおり、計画通りならば、2011年度は微減になる見通し。	製造予定数量の大部分は既契約であるものの、ファイナンス環境とマーケット状況が悪化しているため減少。
EX 09 その他	7,953	+6.9%	4,132	+2.2%	4,199	+7.4%	8,331	+4.7%	↑	8,612	+3.4%	回復傾向が持続するものの、円高や先進国経済の減速、タイ洪水などの下押し要因により、約4割を占める再輸出品や約4分の1を占める科学光学機器を中心に、増勢は2010年度に比べ鈍化。	回復傾向が持続するものの、世界経済の成長率が鈍化する中で、増勢はさらに鈍化。
科学光学機器	2,035	+15.2%	1,087	+4.4%	1,017	+2.4%	2,104	+3.4%	↑	2,156	+2.5%	好調なアジア向け輸出を要因に+3.4%。景気不安と円高を要因に米国・欧州向けは減少。アジア向けは上半期好調なも下半期はタイ洪水影響を懸念。	堅調なアジア需要に支えられ増加するが、拡大ペースは縮小し+2.5%。

*金額は億円単位を四捨五入

*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している